【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第２区分
【発行日】平成21年3月26日(2009.3.26)

【公開番号】特開2007-92900(P2007-92900A)
【公開日】平成19年4月12日(2007.4.12)
【年通号数】公開・登録公報2007-014
【出願番号】特願2005-284183(P2005-284183)
【国際特許分類】
Ｆ１６Ｄ　55/224　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ１６Ｄ　55/224　１０６Ａ
Ｆ１６Ｄ　55/224　１０６Ｂ

【手続補正書】
【提出日】平成21年2月9日(2009.2.9)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ディスクロータの両側に配置された一対のパッドの一方に対向するピストンと前記ディスクロータを跨いで前記一対のパッドの他方に対向する爪部とを有するキャリパを有し，前記ディスクロータの軸方向インナ側に配置した第１および第２のスライドピンと前記ディスロータの軸方向アウタ側に配置した第３のスライドピンとにより前記キャリパをキャリアに移動可能に支持させたキャリパ浮動型ディスクブレーキにおいて，
前記キャリパに前記第３のスライドピンが螺合する取付穴を，前記キャリアのアウタビームに前記第３のスライドピンが摺動する摺動穴を夫々設け，
前記第３のスライドピンは，前記キャリパの取付穴に螺合する雄ねじを有する取付部と前記キャリアのアウタビームの摺動穴に挿入される摺動部とから構成され，
該摺動部の先端に工具により締込みができる凹部を有する締込部を形成し，該締込部の外周が前記摺動部の一部として前記摺動穴に摺動することを特徴とするディスクブレーキ。
【請求項２】
請求項１のディスクブレーキにおいて，
前記第３のスライドピンは，前記ディスクロータ軸方向のインナ側に配置した前記第１および第２のスライドピンのうちクリアランスの大きい第２のスライドピン側に位置することを特徴とするディスクブレーキ。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
請求項２記載の発明は，請求項１のディスクブレーキにおいて，前記第３のスライドピンは，前記ディスクロータ軸方向のインナ側に配置した前記第１および第２のスライドピンのうちクリアランスの大きい第２のスライドピン側に位置することを特徴とする。
【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
また，請求項２記載の発明によれば，第３のスライドピンは，ディスクロータ軸方向のインナ側に配置した第１および第２のスライドピンのうちクリアランスの大きい第２のスライドピン側に位置する構成としているので，第１もしくは第２のスライドピンのうちクリアランスの大きいスライドピン側のがたつきを確実に抑えることが可能となる。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２３】
また，第３のスライドピン15は，キャリパ本体２をキャリア12に移動可能に支持させる第１のスライドピン13ａおよび第２のスライドピン13ｂのうち，クリアランスの大きい第２のスライドピン13ｂ側に位置すると同時に，第１のスライドピン13ａおよび第２のスライドピン13ｂの中心軸ＸおよびＸ’を結ぶ線方向において，第３のスライドピン15がキャリパ２のほぼ内側に位置する構成にしてある。すなわち，図１においては，キャリパ２の外縁２ａに対して第３のスライドピン15の外縁15ｃがディスクロータ周方向の内側に完全に位置することで，第３のスライドピン15の全部がキャリパ２の内側に位置する。また，第３のスライドピン15の外縁15ｃが，キャリパ２の外縁２ａに対して第３のスライドピン15の半径以下のわずかな程度ディスクロータ周方向の外側（換言すれば，第３のスライドピン15の中心軸Ｙが，キャリパ２の外縁２ａよりも内側）に位置したとしても，第３のスライドピン15の大半の部分がキャリパ２のほぼ内側に位置することとなる。そして，このような構成とすることにより，第３のスライドピン15のディスクロータ周方向外側への張出しを抑えることができ，ディスクブレーキ本体をコンパクトにすることができる。したがって，第３のスライドピンとホイールの干渉を回避することが容易なため，ディスクロータやホイールを含めたホイールスペース全体の構成レイアウトを大幅に変更する必要がない。